

令和6年度小郡市小学校標準学力調査の実施について（報告）

令和7年3月

小郡市教育委員会では、これまで小学校で継続してきた標準学力調査について、令和6年度から小学校3年生以上でタブレットを使ったオンラインによるCBT調査として実施することとしました。本年度の調査結果が出ましたので、紙媒体からオンラインに変更したことの「趣旨目的」及び「分析結果」について教職員及び保護者の皆様方へ報告いたします。

1 小郡市標準学力調査とは

小郡市標準学力調査は、学習指導要領の内容を踏まえて、子どもたちの学力を適切に図るための調査です。例年12月に、市内小学校1年生から6年生を対象に、国語と算数の2教科（5年生のみ社会と理科を合わせた4教科）を紙媒体で実施してきました。

2 『CBTによる調査』への変更の趣旨について

（1）『CBTによる調査』とは

CBTとはComputer based testingの略で、パソコンやタブレットなどのコンピューターを使って実施する試験方式のことです。

（2）『CBTによる調査』に移行した目的について

《社会の動向から》

急激に変化する情報化社会とその対応のために、教育分野においても教育DX（教育分野におけるデジタル技術の活用）が求められており、大学入試や就職試験等でデジタル技術を導入していこうとする動きが見られます。

《CBT化のよさ》

- 「主体的・対話的で深い学び」による授業場面を意図した出題が可能。
- 児童も教師も調査結果を常時閲覧でき、児童自らがその伸びや課題を確かめられる。
- 児童一人一人が自分の伸びや課題に応じて、主体的な学習を進めることが可能。

《CBTの特徴》

- ・ 学習指導要領を踏まえた問題（思考力、判断力、表現力を重視）
- ・ 動画や音声を再生して情報を取り出す問題
- ・ タッチ、ドラッグ、動画の再生及び停止、ページの切り替え等の技能が必要

《国・県の学力調査の動向》

上記のような社会の動向やCBTのよさ及び特徴を踏まえて、国や県でも学力調査のCBT化の動きがあります。

□ 今後の全国・学力学習状況調査CBT化（案） 一文部科学省HPより一

	教科	R6	R7	R8	R9	R10
小学校	国語	紙実施	紙実施	紙実施	CBT	CBT
	算数	紙実施	紙実施	紙実施	CBT	CBT
	理科		紙実施			CBT
中学校	国語	紙実施	紙実施	紙実施	CBT	CBT
	数学	紙実施	紙実施	紙実施	CBT	CBT
	理科		CBT			CBT
	英語			CBT		

□ 令和7年度福岡県学力・学習状況調査（CBT）実施予定

調査期間：令和7年5月27日（火）または5月28日（水） ※日程調整中

調査対象（全てCBT実施）

- 小学5学年・・・（国語、算数）
- 中学1年生・・・（国語、数学）
- 中学2年生・・・（国語、数学、英語）

3 令和6年度小郡市小学校標準学力調査結果について

(1) 小郡市小学校全体の結果と傾向

- 算数は、1年生（紙）と3年生（CBT）以外の学年で全国平均値を上回る結果となった。
- 5年生の社会、理科は、どちらも全国平均値を上回り、教科担任制の成果と考える。
- 小郡市の指標「正答率3割以下の割合が全児童の2割以下」を全学年・全教科で達成した。

(2) 小郡市小学校全体の▲課題（要因分析）及び改善策

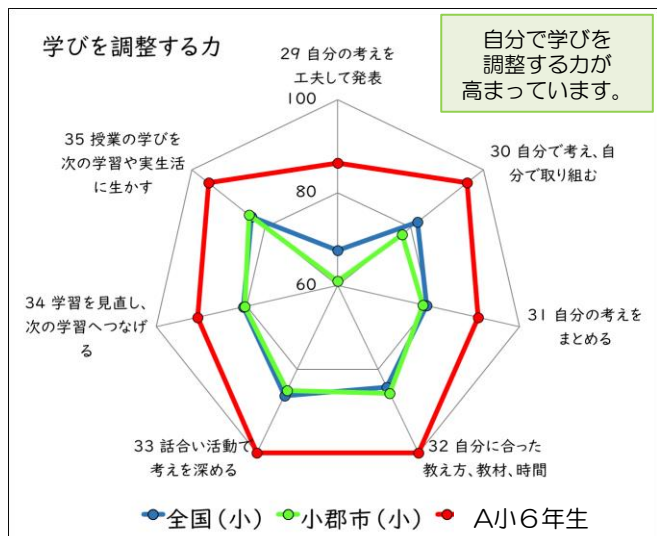
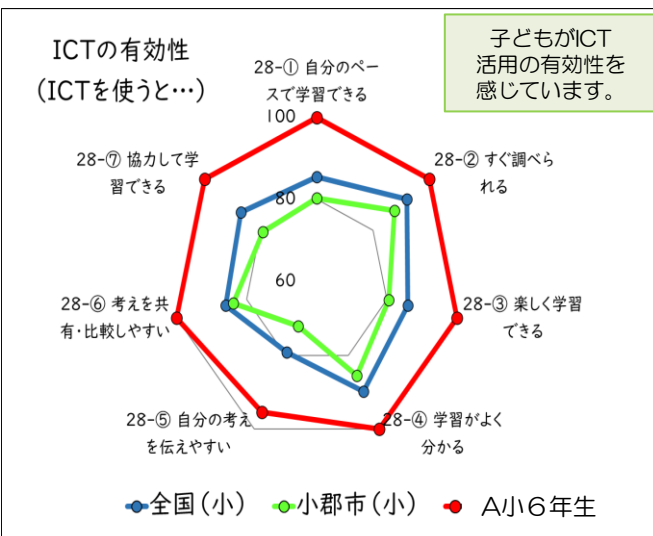
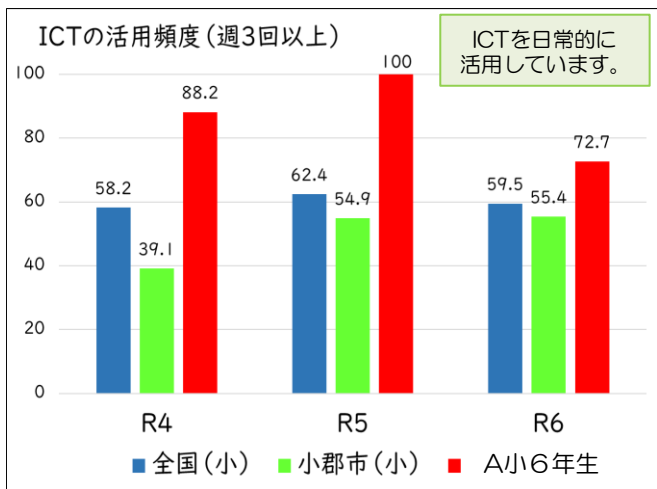
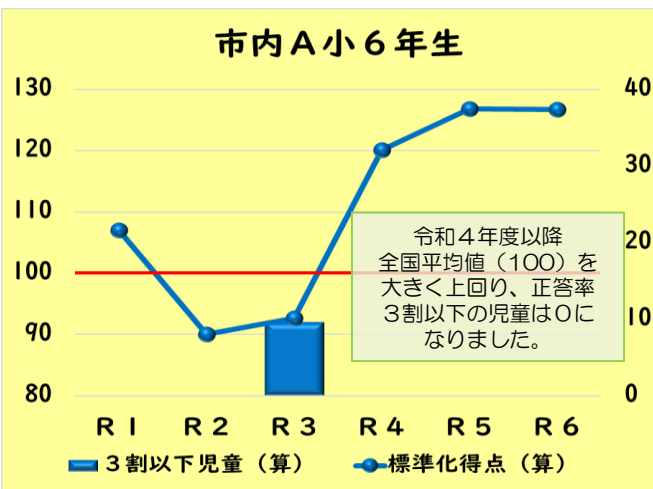
- ▲ 3年生は、国語、算数ともに全国平均値を下回った。
 （3年生は、他の学年と比べて日常的なICT使用頻度が低いことが考えられる）
 → 低学年のうちから、ICTで写真や動画を撮る、保存再生するといった活動を導入
- ▲ 国語は、3年から6年までの学年で全国平均値を下回った。
 （「説明文」や「物語文」の問題で、ページを行き来する動作に慣れていない）
 → 各ページの要点等を紙にメモを取る。
 → タイピング技能の向上《小郡市の指標／1分間》＋スクロール、ドラッグ等スキル
 小学校中学年・・・50文字、高学年・・・60文字、中学生・・・70文字

4 今後の小郡市における授業改善の方向性について

小郡市では、『子ども主体の学び』（個別最適）を組織的に推進していくために、学力向上とICT活用を一体的に推進していきます。キーワードは、「自分で選び・自分で決める」です。

5 参考事例（A小学校のICT活用の取組状況と成果）

下は、GIGAスクール構想の下、学力（算数）が大きく伸びた市内A小に係る資料です。これは、各調査結果を基に、左上「標準学力調査（算数）の経年変化」、右上「ICTの活用頻度」、左下「ICTの有効性の実感」、右下「学びを調整する力」について全国や市全体と比較したグラフです。



【まとめ】

- 子ども主体によるICT活用体制を学校全体として整えている学校は学力が向上している。
- ▲ ICT活用が進んでいない学校は、学力が伸び悩む傾向（活用格差が学力格差につながる）。
- ◎ 『子ども主体』の授業改善（ICT活用を学校全体で進めることを含む）が必要。